

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4090100159		
法人名	社会福祉法人恵康会		
事業所名	グループホームひかりの丘		
所在地	北九州市門司区上藤松3丁目2-1 (電話) (093) 382-3111		
自己評価作成日	平成 28 年 1 月 8 日	評価結果確定日	平成 28 年 3 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者が最期を迎える時、「ここで過ごせてよかった。」と思えるグループホームを目指している。そのために安心して暮らすことができ個性を活かせるよう、日々の健康管理、食事、睡眠等に気を配り1人ひとりに合ったケアに取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 28 年 2 月 19 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

開設から6年経過しており落ち着いた雰囲気が入居者も家庭的な雰囲気の中で穏やかに過ごすことが出来ている。また、家族に対しても毎月、近況報告書（日常生活の様子、介護職員の気付きなどが書かれている）が送付され、家族も安心できる体制ができています。

入居者の心身の低下も見られているが、要望に応じて、医療との連携もスムーズに図り看取り介護の実践にも取り組んでいる。

1階に歯科診療室を設置しており、口腔ケアに関しては他にない設備・システムが完備されている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【1 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット入口に理念を掲示し職員が共有しながら日々の業務にあたっている。	開設6年経過し、理念、職員の心得を見直している。地域密着型サービスとして「近隣地域の方々繋がりも大切にする」ことを理念にも掲げ、朝礼、ミーティング、新人職員オリエンテーションの中で周知し、日々の活動のなかで理念を実践するよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事である夏祭りや餅つきに参加していただき交流を図っている。また、北九州市総合防災訓練に参加している。	町内会に加入しているが、会合等は参加していない。法人広報誌の回覧は行っているが、事業所便りの配布は利用者、家族、一部の関連施設に限られている。事業所主催の行事については夏祭り、餅つき大会等を通じ、近隣の保育園園児との交流や、中学生の職場体験・高校の介護実習受入等を行っている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献の一環として積極的に施設見学を受け入れている。その際、認知症の人の理解や支援の方法をお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回行っている。事業所からの活動報告や事故報告を行い、地域包括やご家族より提案していただいた内容に基づきサービスの向上に役立っている。	運営推進会議は2か月毎に開催され、利用者、地域包括支援センター、民生委員児童委員の参加がある。事業所の活動報告や地域のイベント情報などを意見交換し参考にしていく。	様々な意見を運営に反映することは大切なことです。運営推進会議に家族が参加できるように、工夫が必要です。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課へ事故報告書や看取り介護の対応等相談し、解決に努めている。	毎月、利用状況を介護保険課へ報告するとともに看取り等サービスに関する相談を行うようにしている。また、施設の見学会の開催などについても連絡を取りながら行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物の構造上、転落の危険性があるためベランダの窓は施錠している。その他、玄関等は施錠せずご利用者は自由に過ごされている。定期的に内部研修を行い身体拘束はしない方針である。	日中、玄関や居室の施錠は行っていない。ベランダについては事業所が4階にあるため、出入口は施錠し、出る際は職員が付き添うようにしている。法人全体で身体拘束に関する委員会を立ち上げており、事業所から職員が定期的に参加して、内部研修や伝達研修を行い研鑽を積んでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	ご利用者に対し不適切な態度や発言が見られた場合は、その都度職員間で注意し合いミーティングでも話し合っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性を感じた場合は、管理者が対応しているが、財産関係の内容が多くご家族自身で対応している。	契約時や利用者に必要がある場合に、権利擁護に関する制度の説明を行っている。職員は制度について内部研修を年一回行い、研修記録、報告書もファイルし管理されている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取り十分に説明をしている。不明な点は、その都度対応し納得を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所された時は、できるだけ会話をし、意見等をお聞きしている。要望があった際は、ミーティングで話し合い職員と情報を共有している。	事業所は家族等の来訪時に意見等聴くように言葉かけを行い、関係づくりに努めており、運営に反映させた事例として、食事の要望に答えたレクリエーションの実施や看取り介護の実施に取り組むなどがある。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員の要望や意見を聞くように心掛けているが把握しきれていない部分（苦情や不満）がある。	自己評価は、全職員に配布・記入し、作成している。管理者はミーティングや個人面談を通じて職員の意見等聞き入れている。時には様々な企画を職員へ任せるなどし、職員にやりがいを持たせている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて個人面談を行ったり、日常会話の中で職員のやりがい等尋ねている。今後、人事考課の導入を考えている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、本人の意向や体力面等を考慮し、各事業所への配置を行っている。職員の個性が活かせるよう配置転換も行っている。	職員の採用は法人として行われている。適性を考慮し、性別や年齢等の理由で排除しないようにしている。また本人の能力が発揮できる職場環境を目指し、職員が資格取得できるよう支援している	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内研修を行い1人ひとりの人権に対する意識を高めている。	管理者は、利用者の人権を尊重するために職員に対する人権教育や啓発活動に関する研修を定期的に全職員が理解するよう数回に分けて開催している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は、なるべく多くの職員が参加できるよう勤務調整を行っている。施設外研修は、なるべく多くの職員が受講できるようにしていきたい。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高福協主催の地域密着サービス部会に参加し、サービスの質の向上を目指している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ずご本人とお会いし不安を取り除くよう心掛けている。どうしても入居を受け入れられない方は、ご家族と相談し住み替えの場所を一緒に検討している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向を十分に聞きいつでも相談に応じることができるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、職員と検討し必要に応じ、主治医等にも相談し対応している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として学ぶ事もあり、お互いが思いを尊重しながら穏やかな生活が送れるよう対応している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できる限りご家族にも協力していただき、ご本人が自分らしく生活が送れるよう支え合っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力の下、外出支援等手伝っていただいている。	職員は、生活歴情報把握シートを活用し、利用者の生活習慣や馴染みの人を把握している。知人が訪問したり、外出時に馴染みの方と交流したり、家族等と電話や手紙での連絡を取り持ったりする等、利用者が地域や知人等との関係を継続できるよう支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者間で気の合う同士、席の位置と一緒に過ごす時間等考慮している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの暮らしの継続性が損なわれないように生活環境、支援の内容、注意点が必要なことを情報提供している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメント時に本人、ご家族の思いや意向を確認するようにしている。困難な場合は、以前の暮らしぶり、生活歴等から考慮している。	日頃の関わりにおける言葉や行動から感じ取れることを記録に残している。月1回のカンファレンスで職員全員が利用者からの希望を情報共有している。利用者に寄り添い、思いを汲み取るよう努めている。家族からの情報収集も積極的に努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人やご家族、担当ケアマネジャーにお話を伺い馴染みの暮らし方や生活環境の把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中でご本人が気持ちよく生活が送れるよう状況を把握している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議にて介護計画書について話し合っている。ご家族も交え担当者会議も行い必要に応じ介護計画書の見直しもしている。	本人や家族の意向を基に担当者会議を開き、介護計画を作成しています。日々の記録や担当職員の意見を参考にモニタリング及び評価を行い、3か月毎モニタリングを行っている。訪問看護サービスなども計画に反映し体調管理について計画を作成しています。日々の記録には個々の目標を記載し実施状況を確認しています。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の活動記録が分かるよう業務日誌、個別記録に残している。就業時に申送りを行い利用者の情報を共有している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族と連絡を取り合いできる限り柔軟な対応を心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族の協力の下、外出に協力していたり月1回、地域のセブンイレブンの訪問販売があつている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の協力がありご家族にも十分な説明が行われている。柔軟に受診ができるように対応している。	入居時にかかりつけ医を継続できることを伝え、受診は家族が行っているが、家族に代わって職員が付き添う場合もある。ホームの職員が利用者の体調に気を配り、緊急時などは協力医に連絡を取り指示をもらい対応している。医師からの指示を申し送り表に記入して、全員が回覧し情報を共有している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と24時間連携体制が取れ相談できる環境である。適切な受診や看護が受けられている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の医療連携室と連絡を取り合い1日でも早く退院ができるよう情報交換を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明、同意を受けている。必要に応じてご家族、主治医と話し合い重度化や終末期に対応している。	入居時に、急変時や重度化した場合のホームの対応について説明し、意向を確認している。これまでに看取り支援の経験があり、医師や家族、訪問看護で何度も話し合い、家族の面会を増やしたり、職員は利用者によく話しかけながらホームでできる支援に取り組んでいる。職員は看取りに関する研修・メンタル面の職員研修を法人全体で行い、学ぶ機会を持ちながら方針を共有している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署より普通救命講習Iを全職員受けている。今後も定期的の実施していきたい。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害ごとのマニュアルを作成している。年2回ご利用者と共に避難訓練を行っている。地域の方にも参加していただいている。	「北九州市総合防災訓練」に職員・入居者が参加するなど地域との協力体制も構築している。年2回の避難訓練を実施し、うち1回は夜間を想定している。法人内で防火管理者を1名置き、災害時の計画もされている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりのプライドを尊重しながらプライバシーにも配慮しつつ声掛け、言葉掛けを行っている。	接遇マナーなどの内部研修の機会を設け、職員が参加している。外部研修へ参加した時は、伝達研修を行い、全職員に周知している。利用者はお客様との意識を持ち、言葉遣いや声のトーン、態度など自分に置き換えて考えるように伝えている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者に合わせ質問の仕方を考え思いが伝わるように心掛けている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思を伝えられる方、意志を伝えることが難しい方、共に快適に過ごせるよう個人の生活ペースを把握するように努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる限り洋服はご自分で選べるように声掛けをしている。男性の髭剃りも毎日行い、施設行事の時、女性は化粧を行ったりしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく安全に食事ができるよう職員も一緒に食事をしている。	利用者は一人ひとりの意向や能力に応じて、食事の準備・片づけなどを職員と一緒にやっている。お食事は職員も一緒に食べ会話も弾み楽しく過ごしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は、個人別に摂取量を把握し時間ごとに提供しチェック表で確認している。飲み物も工夫し嚥下が困難な方や水分摂取が困難な方にはゼリー状にして提供している。食事量や食事形態も個人に合わせ無理のないように召し上がっていただいている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行い、歯ブラシの他、歯間ブラシ、ポイントブラシを使用し職員が手直しを行っている。また、定期的に内部で開催される口腔ケア研修に参加し職員間で歯磨きの実演をし技術を磨いている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレで排泄を行っている。時間おきのトイレ誘導やパット交換を行い不快な思いをされないよう支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、個別に声掛けをしてトイレに誘導している。自立に向けた排泄支援を日頃から行うことで、日中はオムツを使用している入居者はいない。排泄チェック表を用いて職員全員で排泄パターンを把握している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や毎日の運動への参加などに心掛け便秘の予防に取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	1人ひとりに合った入浴方法でくつろいで入浴ができるように支援している。	季節の菖蒲湯や入浴剤を使用し、入浴を楽しめるよう支援しています。入浴を拒む方には一番風呂の希望を聞いたり、声掛けを工夫しながら入浴に繋げています。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後、休息を取っていただいたり、夜間は、個人の入眠時間に合せ、室温等にも気を配っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状を把握し、薬が変わった時は、申送りノートを活用し情報の共有を図っている。また、飲み忘れや誤薬をしない為に職員は、相互確認を行い服薬している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗いや下膳等、暮らしの中に張り合いを持てるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出やドライブ等、気候や体調に合わせて企画している。ご家族の協力もあり外食等も楽しまれている。	季節に合った外出行事が計画され、利用者だけでなく家族の方々の参加もあり、喜ばれている。日常的にも、天気や状態に合わせて近隣を散歩をしている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、所持していないが訪問販売を利用し買い物をする楽しみを持てるように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方は、可能な限り要望に応えられるように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの価値観を大切にしながら居心地のよい場を提供するようにしている。	共用空間は清潔に保たれ、壁には季節感のある写真や絵画、また利用者の作品等が飾られている。事業所内で「文化祭」を開催し展示をしている。気分転換も含め食卓配置も変える事や座席も変更している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる時間や希望を聞き、本人のストレスにならないようにしている。 また、気の合う者同士が楽しく過ごせるよう席の工夫をしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた筆筒やご家族の写真等、飾って頂いたり、お好きなぬいぐるみなど持参されている。	どの部屋も清潔に保たれ、それぞれ写真を飾られたり、仏壇が置かれたり、居心地よく過ごせる居室となっている。習慣の継続にも配慮し安心できる居室作りを支援しています	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安心・安全に生活できるよう1人ひとりの身体機能の状態に合わせた環境作りに取り組んでいる。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
			○	② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット入口に理念を掲示し職員が共有しながら日々の業務にあたっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	施設行事である夏祭りや餅つきに参加していただき交流を図っている。また、北九州市総合防災訓練に参加している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献の一環として積極的に施設見学を受け入れている。その際、認知症の人の理解や支援の方法をお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回行っている。事業所からの活動報告や事故報告を行い、地域包括やご家族より提案していただいた内容を基にサービスの向上に役立っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課へ事故報告書や看取り介護の対応等相談し、解決に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物の構造上、転落の危険性があるためベランダの窓は施錠している。その他、玄関等は施錠せずご利用者は自由に過ごされている。定期的に内部研修を行い身体拘束はしない方針である。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	ご利用者に対し不適切な態度や発言が見られた場合は、その都度職員間で注意し合いミーティングでも話し合っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性を感じた場合は、管理者が対応しているが、財産関係の内容が多くご家族自身で対応している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取り十分に説明をしている。不明な点は、その都度対応し納得を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所された時は、できるだけ会話をし、意見等をお聞きしている。要望があった際は、ミーティングで話し合い職員と情報を共有している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員の要望や意見を聞くように心掛けているが把握しきれていない部分（苦情や不満）がある。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて個人面談を行ったり、日常会話の中で職員のやりがい等尋ねている。今後、人事考課の導入を考えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、本人の意向や体力面等を考慮し、各事業所への配置を行っている。職員の個性が活かせるよう配置転換もを行っている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内研修を行い1人ひとりの人権に対する意識を高めている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は、なるべく多くの職員が参加できるよう勤務調整を行っている。施設外研修は、なるべく多くの職員が受講できるようにしていきたい。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高福協主催の地域密着サービス部会に参加し、サービスの質の向上を目指してしる。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ずご本人とお会いし不安を取り除くよう心掛けている。どうしても入居を受け入れられない方は、ご家族と相談し住み替えの場所を一緒に検討している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向を十分に聞きいつでも相談に応じることができるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、職員と検討し必要に応じ、主治医等にも相談し対応している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として学ぶ事もあり、お互いが思いを尊重しながら穏やかな生活が送れるよう対応している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できる限りご家族にも協力していただき、ご本人が自分らしく生活が送れるよう支え合っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力の下、外出支援等手伝っていただいている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者間で気の合う同士、席の位置や一緒に過ごす時間等考慮している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの暮らしの継続性が損なわれないように生活環境、支援の内容、注意点が必要なことを情報提供している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前は、面談時に意向を聞き入居後も細かくアセスメントを取るよう努めている。スタッフ間で情報の共有ができるよう働きかけている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の中で、ご本人の生活歴や趣味を伺いご家族にもお話しをお聞きしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご自分で、できる事（歩行やトイレ動作、食事等）を見極め、なるべく自分でしていただくような支援の方法を提供している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議の実施、月1回のユニットミーティングで職員の意見を聞いている。何かあれば、各自でアイデアを出し合い実践できるよう取り組んでいる。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の発した言葉や行動などそのまま記録に残すようにし、情報の共有に努めケアの見直しに役立てている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ、個人に合ったサービスを検討し、柔軟に対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際は、サクスの演奏や幼稚園の園児が来所し交流を図っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の協力がありご家族にも十分な説明が行われている。柔軟に受診ができるように対応している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と24時間連携体制が取れ相談できる環境である。適切な受診や看護が受けられている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の医療連携室と連絡を取り合い1日でも早く退院ができるよう情報交換を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明、同意を受けている。必要に応じてご家族、主治医と話し合い重度化や終末期に対応している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署より普通救命講習Iを全職員受けている。今後も定期的の実施していきたい。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害ごとのマニュアルを作成している。 年2回ご利用者と共に避難訓練を行っている。地域の方にも参加していただいている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者1人ひとりの性格を把握し、状態に応じた言葉掛けを行うようにしている。 他者に聞かれたくない内容等は、周りに配慮しながら対応するよう努めている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自身の思いや希望を気兼ねなく表現できる雰囲気作りに努め、可能な限り本人の意思を尊重している。自己決定の難しい方については、会話や表現等からその方の思いや希望を汲み取るよう努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、無理強いせず、可能な限りご本人の希望に沿い有意義な時間を過ごしていただけるよう心掛けています。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた物、上下の色合い等を考えた服装選びを行っている。ご自分で選べる方は選んでいただき、必要であればアドバイスをしている。整容、髭、爪の伸び具合等にも気を付け希望があれば訪問美容の支援も行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は施設内で調理されたものを配膳している。食事の前にメニューをご利用者と確認し、どんな食事なのか、美味しそう等会話をすることで期待感を膨らませ楽しく食事が摂れるよう雰囲気作りを行っている。定期的にご利用者と一緒におやつ作りや食事作りを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事毎に食事量と水分量をチェック表に記入している。お茶をあまり好まれない方には、スポーツドリンクやイオンゼリーの提供を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方も最後に確認し、手直しを行っている。口腔内を観察し異常がないか確認している。義歯は、毎日洗浄剤を使用している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々、排泄表に記録し、必要な方には時間おきの声掛けや誘導を行っている。表情や動きを観察し、排泄のサインを見逃さないように気を付けている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	偏食せずバランスよく食事を摂っていただき訪問看護師と相談しながら適度な運動や水分、服薬等の工夫を行っている。入浴時にお腹のマッサージも行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	その日の体調やタイミングを考慮に入れ入浴をしていただいている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、眠れなくなる範囲でご利用者の意見を尊重し過ごしていただいている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬情報をファイルしている。薬の服薬後は、他の職員が飲み忘れや誤薬がないかの確認を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の特技や趣味、力を活かし日々有意義に過ごしていただけるよう配慮している。洗濯物をたたんだり掃除を一緒に行ったり、その他ご本人が興味を持たれたものには可能な範囲で取り組んでいただいている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	不定期ではあるが、ドライブや外食に出掛けしている。ご家族で出掛けられることもある。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はしていない。必要な時は、ご家族が準備されている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際は対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた壁面や飾り付けのレイアウトを行っている。湿度や温度、音楽、TVの音量等に気を付けゆくりと過ごせるよう配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席以外にも椅子やソファを設置し好きな時に独りや気の合う者同士が過ごせるようにしている。また、ご利用者間の相性を考え席の配置を工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れた物や好みの物、写真等を飾り居心地よく生活していただけるよう配慮している。家具等の設置も考えている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリー、その他各所に手すりを設置している。安心して動けるよう、フロアや居室の家具等の配置に配慮している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
			○	③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない